

第4期 pES club シナリオ 1

平成 16 年 1 月 11 日
虎の門病院分院 内科総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巣医科大学附属病院総合診療部の3年目研修医です。

週1回担当している外来に、先週だるさを訴えて受診した元木菜依さん(31歳女性)が再度受診してきました。前回の診察で、うつ病ではなく、妊娠もしていないことが分かっています。採血の結果、貧血の指標であるヘモグロビンや、甲状腺ホルモンである Free T4, TSH も基準範囲内でした。

あなた 「元木さん、調子はいかがですか？」

元木 「そんなに変わらないですね・・・」

あなた 「そうですか。前回受けていただいた検査の結果ですが、貧血の数字やホルモンの数字にも異常がなくて、うつ病などの精神的な病気もなさそうです。ですから、だるさの原因はよく分からないのですが、何か病気があってだるさが起きているという感じはしませんね」

元木 「そうなんですか。そしたら、どうしたらいいですか？」

あなた 「そうですね、お仕事がお忙しいということはありませんか？」

元木 「忙しいですね」

あなた 「余りよく眠れていないとおっしゃってましたよね？」

元木 「そうですね」

あなた 「お忙しいこととは思いますが、睡眠時間は十分お取りになって、お体を休められた方がよろしいですね」

元木 「そうですか・・・実は今、サプリメントで鉄の錠剤を飲んでいるのですが、これでだるさは取れますか？先日テレビで貧血がない人でも飲んだら元気になると言っていたのを見て、飲み始めたんですが」

あなた 「いやぁ・・・どうでしょう？私はよく知らないのですが、テレビの健康番組も眉唾ですからねぇ・・・害はないでしょうから飲んでもいいと思いますが、本当に効くのかどうかは保証できません」

何とかその場を切り抜けたあなたでしたが、最近、元木さんのほかにもサプリメントを飲んでいる患者が多いことに気がきました。そこでまず、鉄剤が疲労回復に効くかどうか、図書館で文献を調べてみることにしました。